



# JAC北九だより

No.74 (平成27年 第4号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部

支部長 伊藤 久次郎

事務局: 行橋市東泉3-18-10

竹本 正幸方

TEL-FAX 自宅 0930-28-9611

携帯 090-6739-9251

編集人: 事務局(森 義雄)

印刷: 山口県山口市水の上町2-25

内藤 製本所

## 8月9日(日) 山の日制定プレ山行 スイカ割りで盛り上がった親子登山

14264 丹下 治



写真 風師山(風頭)

平成28年度から8月11日が「山の日」祝日となります。北九州支部では、昨年は8月11日に実施しましたが、今年は8月9日(日)プレ山行として多くの一般登山者に参加を呼びかけ開催しました。

今年は毎日新聞社の後援を受け、北九州版および下関版に掲載されました。

8月9日(日)晴れ、当日は当日参加者も含め一般登山者32人(昨年は12人)、支部会員19人の51人の参加で、昨年を大きく上回りました。(昨年は24人)

今年のコースは風師山(風頭)から矢筈山キャンプ場の登山コース。午前8時参加者はJR小森江駅に集合、小森江子供のもり公園へ向け出発、公園では全体のスケジュールと注意事項の説明をおこないました。

伊藤支部長から本日8月9日は長崎に原爆が投下された日であり、平和の大切さを考える日でもありま

す。山に登れる喜びを大切にしなければなりません。来年からの「山の日」祝日にあたり、日本山岳会が中心となり「制定の運動」をおこない制定されることになりました。これを契機に多くの登山者に山を愛し自然の恩恵に感謝し、自然に親しんでほしいと思います。日本山岳会北九州支部としては毎年この山の日を記念事業として定着させていきたいと考えていますと話されました。

午前9時公園を出発。丹下リーダー、赤瀬リーダー、内藤リーダー3班に分かれ、一般参加者を会員がサポートしながら風師山へ登る。この風師山登山ルートは、地元登山愛好会(こもれびの会、風師山早朝登山会)などの方が日々整備しており、登りやすい道です。10時すぎに風師山(風頭)に到着。ここで、丹下会員からマナスル初登頂後訪れた日本山岳会元会長横有恒の記念碑と略歴碑が設置されているとの説明





写真スイカ割風景

をおこない、30分ほど休憩。風師山山頂を経由して、矢筈山キャンプ場へ向かう。途中、山頂からの急坂では、参加者もやや慎重な歩きとなる。ここには、昨年門司区役所と協力してロープを設置した場所で、登山者にはありがたい転倒防止となっています。

午前11時43分に、矢筈山キャンプ場に到着。ここは旧陸軍の要塞跡があり、映画の撮影などに使用された場所でもあります。参加者はその史跡を見学し、昼食。池田智彦会員が冷えたお茶をサービスし、次は待望のスイカ割り。子供さんも多く参加されています。目隠しをしながらスイカ割りに挑戦、スイカが大きいたたいてもなかなか割れず、苦戦。最後に参加者全員で冷えたスイカをほおぼる。

午後1時40分下山開始。2時すぎに全員元気に子供のもり公園に到着し、解散しました。参加者の中には、遠く仙台からの参加者もいて、帰省中にぜひ親子で登りたいと参加され、来年もきたいなあ。参加者の中には、高齢の参加者もいて、途中体調をくずされたが、救護班の町元会員のサポートや伊藤支部長のリードにより無事下山されました。

来年度から山の日イベントとして、支部はこの風師山を中心とした親子登山および絵画展などを開

2015年(平成27年)8月25日(火) 毎日新聞



「山の日」制定記念し家族登山

来年から祝日となる8月11日の「山の日」を記念し、日本山岳会北九州支部は門司区の風師山と矢筈山の家族登山(毎日新聞社後援)を実施した。支部会員19人のほか、下は5歳から80代の一般家族28人が参加。JR小森江駅集合・解散で、

風師山頂(362.8m)、矢筈山(266.8m)の約7.5kmを歩き、矢筈山キャンプ場ではスイカ割りなどを楽しんだ。出発前に伊藤久次郎支部長は「山の日制定について話し、(山の日)9日は長崎に原爆が投下された日。山歩きができ



風師山頂で、記念登山の参加者たち

る平和をかみしめながら登ってほしい」とあいさつした。帰りで祖父と母親、弟と参加した仙台市の小学2年、佐々木優弥くんは「山登りは好き。スイカ割りも楽しかった。また参加したい」と話した。

【松田幸恵】

記事は平成27年8月25日毎日新聞掲載(毎日新聞社協力)

催したいと考えています。

今年は、毎日新聞社の後援を受け、紙面で呼びかけていただき、多くの登山者が参加された。当日も取材に来られ、その記事が北九州版および下関版に掲載されました。後援のご協力に感謝するとともに、来年はさらに盛り上げたいと考えています。

最後に、当日多くの会員が一般参加者のサポートをしていただき、無事終えることができました。ここにお礼を申し上げたいと思います。

北九州支部参加者 19人

会員：伊藤久次郎(支部長) 原広美、馬場基介、高島拓生、内藤正美、大木康子、丹下洽、丹下香代子、池田智彦、大内喜代子、赤瀬榮吉、縄田正芳、森義雄、町元里香、大谷恵美子、今田智絵、山中秀正、清家幸三  
支部友：伊藤友紀

北海道支部創立50周年記念式典

- 日時 平成27年12月12日(土)  
◎式典：15:30分～(開場15時)  
◎祝宴：16時30分～
- 会場 □イトン札幌 2階  
(札幌市中央区北1条西11丁目)
- 行事内容 ◎式典  
◎創立50周年記念事業報告  
◎祝宴  
◎特別企画
- 会費 6000円
- その他 記念式典参加希望者は、北九州支部事務局へお問い合わせ下さい

作品募集

来年から8月11日が、国民の祝日「山の日」となることから、その制度を記念して、支部会員(支部友)による山の文化展を開催します。

◎文化展の内容

山に関する写真、絵画、版画等の展示コーナーと山の歴史、山の道具などの展示をいたします。

出品に備えて、今から準備をお願いします。

◎期日：平成28年8月頃の1週間(予定)

場所：門司港レトロ 旧門司税関(予定)

◎問い合わせ 伊藤久次郎



## 山の日制定プレ山行

私にとって真夏の山行は修行・・・でも子供たちは元気！

15505 今田 智絵

8月9日(日)晴天も晴天。とても暑い暑い夏山行に行ってきました。

ちょうどお盆の休みもあり、遠方より帰省中の家族も参加。一般参加32人(子供6人)、支部会員は19人、計51人が集まりました。

JR小森江駅前に午前8時集合、午前8時5分小森江子供のもり公園に向けて出発。小森江駅から公園までは20分ぐらいだが既に汗ダラダラ。ひさしぶりの夏山で今日は1日もっかなと思ながら公園へ向かいました。

午前8時22分公園到着。全員集合して点呼、3班に分かれて9時5分風師山を目指して出発。つづら折りの山道を歩き、10時10分風師山(風頭)着。船が行き交う、関門海峡はいつ見ても美しい光景。ここで全員の集合写真をパチリ。10時30分風師山山頂に向けて出発。山頂でちょっと休憩、10時44分矢筈山へ出発。

11時43分矢筈山キャンプ場に到着。暑さの中を歩き、少しぐったりしていた子供たちは、キャンプ場へ着くやいなや走り出して、かけっこがはじまる。子供は回復力があり、直ぐに元気になる。キャンプ

場にある明治時代の史跡をめぐり、展望台で参加者が集まり昼食。ここから見える関門海峡も最高。

午後1時前からまちに待った、子供たちのスイカ割り大会開始。思い切って棒でたたいても、なかなか割れず、2周目に入り大きなスイカにヒビがはいりました。スイカは冷たくて、とても甘く大人も子供も夢中でスイカにガブリ。後片付けをして、午後1時40分下山開始、午後2時16分公園に到着。暑い中、子供たちがよく頑張りました。皆さんお疲れ様でした。

天候にも恵まれ、良い汗をかきました。とても良い夏山山行でした。ありがとうございました。でも、本当に暑かった！！



丹下会員の説明

## ◇北九州支部忘年の集いのご案内(12/19開催)◇

### 1 とき・時間

12月19日(土) 午後5時開会(受付4時30分から)  
午後7時終了(予定)

2 場所:「あじさいの湯」 TEL093-653-4126  
(北九州市八幡東区河内2-3-36)

※交通手段 JR八幡駅から「あじさいの湯」  
までは、無料送迎バスあり(約20分)

3 会費:6000円

4 懇親会では、

(1) 15周年記念山行の写真放映

(2) オークション開催(登山用品など)

をおこないます

5 申込み期限 12月4日(金)

6 申込み先

森 義雄 (携帯090-4475-7799)

大木 康子 (携帯090-3884-5515)

### ◆記念山行:血倉山

1 集合時間・場所 午前9時30分  
JR八幡駅改札口前

2 登山コース (所要時間:約4時30分)  
血倉山登山口~血倉山山頂(昼食)~  
河内(あじさいの湯)

3 その他

下山後「あじさいの湯」で入浴し、  
忘年の集いに参加します

## オークションでの用品大募集!

当日のオークションでの用品を募集します。  
サイズの合わなくなった登山用品、使わな  
くなった用品などがありましたら、ご連絡く  
ださい。当日、オークションします。

# ◆◆北九州支部設立15周年記念山行特集◆◆

## 後立山(白馬岳から針ノ木岳をつなぐ!!)

支部設立15周年にあたり、国内記念山行をおこないました。5月から参加者は各班ごとに事前訓練を実施し、7月末の本番での安全な登山を目指しました。3班とも縦走期間中は比較的天候に恵まれま

したが、一部ルートは雷雨情報により、日延べがありました。全ルートが無事通過し、参加者全員下山いたしました。

本支部報ではその様子を報告させていただきます。

### ●A班(白馬岳～朝日岳)

参加者：7人 会員：武永計介CL、森義雄SL、大内喜代子、縄田正芳、支部友：井上薫、  
ビジター：大貫富枝、伊藤貴代子

期 日：7/30(木)～8/2(日)

日程・コース：7/30(木) 山口市～白馬温泉(泊)

7/31(金) 猿倉4:00～5:15白馬尻6:10～7:50大雪渓8:10～10:15白馬岳頂上宿舎(休憩：昼食)  
頂上宿舎11:20～13:05杓子岳13:20～15:00頂上宿舎(泊)

8/1(土) 頂上宿舎3:30～3:50白馬山荘～4:20白馬岳山頂4:55～5:26三国境～7:15雪倉岳避難小屋7:20～昼食～8:30雪倉岳8:40～13:15朝日岳山頂13:30～14:10朝日小屋(泊)

8/2(日) 朝日小屋3:25～4:34朝日岳山頂4:40～5:15梅海新道分岐～五輪尾根(昼食)～  
11:25蓮華温泉～山口市

### ●B班(白馬岳～唐松岳)

参加者：5人 会員：赤瀬榮吉CL、内藤正美SL、馬場基介、大谷恵美子、小林英世

期 日：7/31(金)～8/3(月)

日程・コース：7/31(金) 山口～車中泊～8/1(土)八方口

8/1(土) 猿倉6:00～7:00白馬尻7:30～11:00大雪渓～12:45白馬岳頂上宿舎テント場(休憩)  
頂上宿舎16:00～17:00白馬岳山頂～18:00頂上宿舎テント場(泊)

8/2(日) 頂上宿舎5:00～6:20杓子岳～7:40白馬鑓ヶ岳山頂～9:00天狗山荘テント場(泊)

8/3(月) 天狗山荘4:30～不帰の嶮～9:00唐松岳～11:50八方池山荘～八方口～山口

### ●C班(五竜岳～針ノ木岳)

参加者：5人 会員：竹本正幸CL、縄手修SL、竹本加代子、歳弘逸郎、支部友：田中貴大

期 日：7/23(木)～7/27(月)

日程・コース：7/23(木) 北九州～山口～多賀SA泊～7/24(金)五竜とおみ

7/24(金) とおみ7:30～地蔵の頭～12:00大遠見12:25～15:35五竜山荘(泊)

7/25(土) 五竜山荘4:00～5:20五竜岳6:00～9:50キレット小屋～鹿島槍ヶ岳南峰12:40～  
14:55冷池山荘(泊)

7/26(日) 冷池山荘4:00～5:45爺ヶ岳南峰6:10～種池山荘6:45～9:25新越山荘9:45～  
赤沢岳12:05～15:20針ノ木岳15:40～16:15針ノ木小屋(泊)

7/27(月) 針ノ木小屋6:20～8:20大沢小屋8:50～9:50扇沢～山口・北九州



7月30日(木)~8月2日(日)

## A班 白馬岳 ~ 朝日岳 ~ 蓮華温泉



猿倉



白馬岳



雪倉岳

## 早立ちのおかげで楽しい山行を堪能!

14476 武永 計介

A班のCLを依頼された時に、長野の友人から以前より、白馬岳~雪倉岳~朝日岳の縦走路は、入山者が少なく高山植物と雪渓が素晴らしいと聞いていたので、すぐに引受けました。

顔合わせを兼ねた訓練登山を実施し、山行内容の共通認識も持ち出発しました。しかし昨今の異常気象と熱中症対策等の不安もありました。

終わってみると、毎日早立ちしたおかげで渋滞を回避でき、マイペースで青い空と白い雪渓と何処までも続くお花畑を堪能することができました。

下山時には、私にこのコースを勧めてくれた友人が、スイカを冷やして出迎えてくれ、一緒に露天風呂に浸かり楽しい山行の良い締めくくりとなりました。

## リベンジの白馬岳縦走!

15387 森 義雄

今回の白馬岳縦走は私にとっては、2回目の登山。しかし、前回は雪渓を上ったところから雨、白馬岳、杓子岳、白馬鑪ヶ岳は雨で景色も見えず苦しい思い出となっています。今回は、記念山行で再び白馬岳に登る機会に恵まれました。

30日はふもとの白馬温泉に泊まり、武永CLの入念な打ち合わせをいただき、早々に床に就きました。

31日は晴れ、早朝午前4時猿倉を出発。あたりはまだ夜、暗い中、林道を歩く。30分過ぎたころから明るくなり、午前5時すぎには白馬尻小屋に到着。

既に登りはじめた登山者もいます。アイゼンを装着し、我々7人も出発。武永CLを先頭にゆっくり登ります。まだ時間も早く前後に登山者がいないた

め、自分たちのペースで目の前に広がる雪渓を眺めながら登る。約2時間で雪渓を越えて、周辺のお花畑を眺めながら余裕をもって進む、快調なペースで登り、午前10時15分予定より早く白馬岳頂上宿舎に到着しました。一旦宿舎に荷物を置き、休憩後杓子岳を目指します。昼前の午前11時20分に宿舎を出発、快晴の青空を見ながら急坂を下り、杓子岳の急登を登ります。ガレ場で足元も悪い急登を汗だくとなって登り、山頂へ。目の前に白馬山荘が大きく見える。後立山の全景を見ることができました。明日は天気良ければ、白馬岳でご来光を眺めて、遠く朝日岳への縦走となるのかなと。

翌日1日晴れ、午前3時30分宿舎を出発、満月でヘッドライトが要らないくらい明るい。白馬山荘を過ぎて、山頂を目指す。山頂には、登山者は多くはない。期待したご来光も眺められそう。徐々に朝日が昇りだすと登山者の歓声があがる。やはり、来てよかったと思った。

午前4時49分ご来光に手を合わせ、縦走の安全を祈り、記念写真を撮り、朝日岳へ向かいました。今回、記念山行で念願の白馬岳に登り、最終日蓮華温泉に全員無事下ることができました。これも、期間中武永さんの適切なアドバイスがあり、安心して縦走できました。参加メンバーに感謝しながら山行を終えることができました。



武永リーダー休み





朝日岳



雪渓を渡る



蓮華温泉到着お迎えの松木さんと

## 大雪渓を越えるとそこはお花畑！

15138 縄田 正芳

いよいよ山行第1日目、午前3時30分ワクワクした期待感と最後まで歩けるのだろうかという緊張感とともに宿を出発しました。星空の中、車で登山口の猿倉へ。午前4時というのに駐車場はすでに満杯状態でした。白馬尻小屋までは左手に深い谷を見ながらの林道歩き。そこからはいよいよ本格的な山道に入り、しばらく歩くと大雪渓が眼前に見えてきました。圧倒的な大きさに感激です。アイゼンを着けての登りはサクサクと爪の食い込む音が快いものでしたが、雪の上を吹き降ろす冷たい風と汗にまみれての登り2時間の歩行は厳しいものがありました。

ようやく雪渓のきれいな麓へ。このあたりから高山植物が可憐な姿を見せてきます。小雪渓を越えればもうあたり一面は夏の光をサンサンと浴び青々としたお花畑です。今までの登りのつらさも吹き飛びます。シナノキンバイ、ハクサンイチゲなどなど多くの高山植物が疲れを癒してくれました。

午前10時15分予定よりも早く宿泊予定の山頂小屋に到着。宿泊の手続きをおこない、部屋に入りました。大休止の後、杓子岳往復に挑みました。白馬岳稜線に出て途中丸山(2788m)へ向かう。360度の大展望。眼前の鋭い岩峰の剣岳、続く稜線の立山、薬師岳そして遠くに槍ヶ岳まで見渡せました。北方方向には明日歩く雪倉岳、朝日岳そして小さく赤い屋根の朝日小屋も見えました。また南東方向には青い山容の八ヶ岳、南アルプス、中央アルプスなども見渡せ、のんびりと雲上の展望を満喫することができました。



## おいしかった雪渓の雪！

14689 大内 喜代子

2日目：8月1日(土)晴れ、白馬岳頂上宿舎を午前3時30分出発。今日のコースは白馬岳(ご来光)～雪倉岳～朝日岳～朝日小屋、午後3時着予定である。

白馬岳(2932.2m)山頂午前4時20分着。すでに登山者達が日の出を待っていた。私達も午前4時50分前後の御来光に手を合わせ今日一日の無事を祈って歩き出す。昨日登った杓子岳にさよならして三国境を越え、雪倉避難小屋午前7時15分到着。

この辺からお花畑が広がって行く。午前8時から20分間朝食休憩。しっかり汗を流した後のお弁当は格別においしかった。

出発後、10分で雪倉岳(2610.9m)山頂に着く。

快晴に恵まれ景色は最高。花も沢山あり心癒される。マツムシ草が長い距離沢山咲いていた。高山植物は早くも秋の気配である。遠くに朝日岳が見える。

まだまだアップダウンが続く。正午を過ぎると熱中症を心配して武永CLは雪渓の雪をとって来てくれた。きれいな氷は、かき氷のようで皆で口に放り込みのどを潤す。本当に冷たくておいしかった。残りの雪はタオルに巻いて首を冷やしながらか朝日岳に向かった。

午後1時16分朝日岳(2418.3m)到着。まずは集合写真を撮る。ロケーションは素晴らしい。朝、歩いて来た白馬岳や雪倉岳の雄姿が望まれる。頂上ではゆっくり休憩をして午後1時30分出発。あと少しだ頑張ろうと気合が入る。最後の下りの先に木道が続き、その先に朝日小屋が近づく。午後2時10分到着。

予定より30分以上早く着いた。集合記念写真を撮ってカラッカラに乾いたのどを潤すビールで乾杯。歩いた道筋はかなりの部分木道で整備され、両側には色とりどりの高山植物が沢山咲き、予想しなかったミズバショウの白い花をカメラに収める。心癒される山旅になりました。同行の7人のチームワークも良かったと感謝です。有難うございました。



**蓮華温泉で疲れを癒す！****北九445 井上 薫**

3日目：8月2日(日)晴れ、心配した天気は今日も良さそう。午前3時25分朝日小屋を出る。満月でこの時間でも明るかったがヘッドランプを点け、昨日下った朝日岳へ再び登る。

午前4時35分山頂着。早めの朝食。山小屋でいただいたおにぎり弁当1個をほおばり、15分後出発。

いよいよこれから蓮華温泉へ下山開始である。梅海新道、蓮華温泉の標識を確認、朝日を浴びた雪渓より湯気が昇り、高山植物の花々も太陽の光を受け、眠りから覚め露と一緒に輝きを増し、美を競い合っているようだ。天気に恵まれ、この時期に来たものにしか見られないご褒美だ。五輪高原では、標高が高いにもかかわらず湿原で高山植物が多く、木道でしっかり整備され歩きやすい。ここで2回目の食事タイム、残りのおにぎりを食べ給水を済ませ、午前7時35分出発する。

武永CLによれば1～2週間前この付近はまだ雪渓があったそうで足元がぬかるんでいるところもあ

る。今日は縦走3日目なので疲れがたまりストックでバランスをとりながら慎重に下る。

午前11時、蓮華温泉まで30分の登り坂で、武永さんの友人松木さんが出迎える。猿倉登山口から蓮華温泉まで車の回送をお願いしていた方で、ちょうどあと30分のところで苦しいところ、有り難い励ましの声をかけていただく。

午前11時25分蓮華温泉ロッジに到着、集合写真を撮る。松木さん、同乗者の高野さんが用意してくれた冷えたビールを飲みとスイカをほおぼる。最高に美味しかった、感謝感謝。3日間の汗を温泉で流し、全員元気で完登できたことを喜び合う。

武永CLさん、森SLさんありがとうございました。又、参加された皆さん、お疲れ様でした。

**7月31日(金)～8月4日(火)****B班 白馬岳 ～ 唐松岳 ～ 八方口**

大雪渓をいざ登る



⇒ 白馬岳



⇒ 杓子岳

**40年ぶりの白馬岳縦走****14079 内藤 正美**

8月1日(土) ひさしぶり二度目の大雪渓。

今回の山行、40数年前に白馬岳登頂以来なので記憶が定かではなかった。大雪渓は涼しく、そのあとは山頂までわずかだったとしか覚えていなかった。昨年八方尾根で蟻の行列のような登山者に驚いたが、白馬岳も同様だった。実際、今回は週末土曜日のせいか上高地以上にぎわいを見せている。以前は若い人ばかりであったが、今はその数倍の中高年が押し寄せるので数珠つなぎで大雪渓を登っていく。

初めはひんやりと感じていたが、次第に暑さに耐

えられなくなる。睡眠不足もあり、とうとう小屋直下のお花畑で監視員と談笑しながら、昼寝をしてしまった。小林さんには、テントを取りに来てもらいご迷惑をかけた。夜も寝袋に入ることなしに寝た。

北アルプスの稜線では初めてだ。猛暑だけではなく、体が耐えられなくなっているのだろう。これからは山は楽しみたいが、自分の体力がいつまでもつか心配になってくる。私にとって山登りは遊びなので、楽しく、安全に、財布に優しいを心掛けてきた。

遊びで負傷してはならないし、無論死んでは絶対にいけない。年を取ったことを自覚して、無理のない山登りを続けていきたいと思う。





白馬鑪ヶ岳



⇒ 天狗の頭でやれやれ



⇒ 岩場をほう

### 不帰の嶮をわたり、達成感を味わう！

15834 小林 英世

記念山行のお誘いを受け、夏山はテント泊とばかりすぐに参加表明した。実は、雪山でもテントがよいと思っている。布1,2枚で自然と接触している。

夏山の混雑した山小屋に比べ、横になるスペースが確保されている。2ヶ月前後荷物が重くなるのは難点。ゴルフのようにテント場までの宅配はないのかな？

事前の縦走訓練は第1回目は6月14日の竜王山～鬼ヶ城山～石畑峠、第2回目は7月4日～5日のお鉢周りを含む由布岳。訓練もクリアして、参加が認められた。

7月31日(金)正午山口発、途中多賀レストインにてぐっすり仮眠(3H)をとる。

8月1日(土)午前5時八方第5駐車場着、準備を終えてタクシーをチャーターして猿倉へ。足を悪くするまで登っていたという話し好きの運転手だった。

猿倉登山口は大変な混みよう。

午前6時登山開始。道中、お花がいっぱい。蟻の行列に混じって午前7時大雪渓に取りつく。

午前11時小雪渓、喘ぎながら正午12時45分白馬岳頂上宿舎到着(頂上はまだ遠いのに)。

テント場も混んでいるが、なんとか場所を見つけがんばって張るが、風向きからトイレの臭いがする。

休憩してから、白馬岳を往復。そのあと、早めの食事でぐっすり寝た。

翌2日(日)晴れ、午前5時テント場出発、午前5時5分ごろ来光を仰ぐ。

杓子岳には馬場さんも登られたが、白馬鑪ヶ岳には大谷会員と二人で登る。巻き道を行った3人と合流したところ、馬場さんは鑪温泉の分岐で下山するという。内藤SLもついて下山する。

帰途二人が、鑪温泉で入浴、疲れをいやし、無事下山されたとのことであった。

われわれ残り3人は寂しいが午前9時天狗山荘に到着した。(なぜか時間がかかりすぎ)そこで、山岳指導員から、「雲の立ち上がりからするとお昼頃に

雷が発生する可能性があるので、安全のため不帰のキレットは行かない方がいい」と強く何度も言われ、あのくらいの雲がねと思いながら、とどまることにした。滞留する予定をしていなかったなので、時間をつぶす道具が何もない。

寝たり起きたり、食事をしたりで時間をつぶしていると、テント派がぼちぼち到着した。(何人かとどまり、飲み物、昼食、夕食を天狗山荘で摂るものが増えただろう)結局、今日は天候は崩れず、雷も鳴らなかった。

翌3日(月)は晴れ、午前3時起床、疲れも取れ、午前4時30分出発で普通のスピードで歩けた。午前5時天狗の頭、劔岳や立山連峰が朝日を浴びている。午前5時39分いよいよ天狗の大下り。400mの落差を一気に下るが、岩場のあとざれ場が続く、緊張が走る。30分かけてようやく下りたと思ったら、これから不帰の嶮、緊張の連続である。

第一の嶮、第二の嶮と険しい岩場が続く。ようやく第二の嶮南方に到着、ほっとする。

天空の眺めを満喫する。あと、第三の嶮をがんばって、唐松岳に午前9時到着。この笑顔で、珈琲で祝杯を挙げ、仲間が待っている八方池に急ぐ。

午前11時50分仲間と合流を祝って、再び珈琲を。

帰路は、新幹線が開通した北陸道で帰ることにし、小谷で温泉に入ってお土産も買っていざ帰路へ。途中、レスト多賀で夕食をとり、4日午前2時半ごろ、解散場所である佐波川SAに到着。下関の大谷さん、門司の馬場さん、そして古賀の赤瀬さん、残りの帰路ご苦労様です。

天候にも恵まれ、指導員に阻まれ、計画の五竜岳までは行けなかったが、安全第一。

八方尾根を下り、無事下山できた満足の夏山登山であった。メンバーにも感謝します。







鎖場を通過 ⇒ 不帰の2峰南峰 ⇒ 唐松岳 ⇒ リフトで八方口へ

**白馬岳から釜温泉ルートへエスケープ**  
13532 馬場 基介

6月の竜王山縦走、7月の足立山・由布岳キャンプと3回の事前訓練を行い、7月31日午前11時門司を出発、佐波川SAで参加者5人合流、長野へ向かいます。

8月1日晴れ、午前6時猿倉を出て7時過ぎ白馬尻小屋、大雪渓が美しく続く。

9時50分第2雪渓・お花畑・避難小屋を経て当日の目的地、頂上宿舎テント場も近い。急に足が重く、止る。15kg強のリックのせいが、初の経験でした。テント設営後白馬岳へ、午後5時無事、5人の記念写真が撮れました。

8月2日、杓子岳～白馬釜ヶ岳～唐松岳の予定で出発しましたが杓子岳に登った時、昨日の体験が頭をよぎり、皆様に迷惑をかけてはと断腸の思いで、白馬釜温泉経由の下山ルートに変更しました。釜温泉で入浴中内藤氏が心配して駆けつけてくれました。

大変心強く感じました。ゆっくり疲れを取り、約4時間のコースを猿倉へ向いましたが雪渓・お花畑・岩場等ユニークなコースでした。

駐車場に戻り、車で温泉・買物・夜食・野宿場を探しながら、「道の駅白馬」に着く。ここには、10台近くの山屋と思われる車が有り、実際、夜になると交歓会も開かれました。下関の方もいました。私は車で、内藤氏はテントで寝ることになりました。

8月3日、内藤氏は、本隊は八方尾根ルートで下山すると判断し、黒菱経由で八方池(2070m)へ登山し待つ。お花畑が整備され観光客でいっぱいです。

午前11時50分、本隊と合流、コーヒーで祝杯をあげる。

今回の記念山行で、テント泊の楽しさと厳しさを学んだが今後に生かしたいと思います。

同行いただいた皆様ありがとうございました。

**テント泊の魅力にはまる！**  
14916 赤瀬 榮吉

B班はテントでの縦走。テント泊の経験のない私は、直前に3回事前訓練を経験し参加しました。

1日目(晴)午前6時登山開始、猿倉からの大雪渓ルートも初めてで、土曜日で混雑、アリの行列状態をゆっくりした足取りで大雪渓を登る。昼過ぎ白馬頂上宿舎テント場に到着。早々、テント設営後、一休みし白馬岳をピストン登山する。山頂からの絶景は疲れを癒やしてくれました。

2日目(晴)午前5時出発、9時前天狗山荘で若い管理者に呼び止められ、午後の不帰の嶮越えは、雷注意報で危険と強く諭され天狗山荘での足止めを決めました。朝から一日のんびりと過ごします。この日の食事は昼と夜、山小屋でとりました。

3日目(晴)午前4時30分出発、休養十分で難所の不帰の嶮を無難に越え、唐松岳からショートカットし八方尾根を下山しました。(五竜岳登山は断念)重いテントを担った内藤さん、小林さん、ご苦労をおかけしました。

今回CL担当、メンバー構成、天候による行動の判断、エスケープルートの選択等、貴重な体験があり、今後の活動に生かして行きたいと思います。

メンバーの皆様、ご支援、ご協力ありがとうございました。

終わりに、今回の山行でテント泊の気楽さ、経済性、布1枚隔て自然との触れあい等、とりこになりそうです。次からは、自分でテントを担い登山を堪能したいと思います。(蛇足：テント2型を購入しました)





## テント泊での後立山縦走 不帰の嶮を越える

15580 大谷恵美子

15周年記念山行で、後立山連峰縦走が計画されました。私事ですぐ針ノ木岳を残してB班のコースを歩くと、これまで歩いた後立山がつながると思い、申込おとなんと「テント泊」・・・さあ大変なこと!

前準備として、5月からグループ参加者で2~3回の事前訓練を行い、私も参加して本番に臨むことになりました。

初日、大雪渓は土曜日のせいか登山者が多い。人気の山コースなんだろう。白馬山頂宿舎テント場はすでに多くのテント宿泊者、2張りのテントの場所を捜し、設営を済ませ、全員でゆっくり白馬岳に登り、山頂に立つ。

2日目、杓子岳から白馬鑓ヶ岳の稜線歩きは、前日大雪渓から見上げる杓子岳尾根からは想像できないやさしい山容だ。素晴らしい、だから稜線歩き大好き・・・。天候にも恵まれ進み、天狗山荘に到着。

積乱雲が発生していてキレットを歩く時間のころが危ないと制止され、足止めとなる。そのため一番

乗りでテントを設営し、ゆっくり休息、時間が流れる。テント泊をする韓国ペアと話をするチャンスがありました。彼らによると日本の山々を今年は10日ぐらいかけて登るとか、日本の山が好きといていた。明日の早朝出発のため、山小屋で夕食をとり、早めに眠る。

3日目は、天狗のくぐりを下ったところで大きなザックの一人の女性と立ち話し、若いことは色々チャレンジできる。一峰を越えて、二峰で下りの人を待つ、周囲の景色を見ていたが吸い込まれそうに不安がよぎる。仲間から前進しないと声をかけられ、二峰に足をかける。今回の山行では岩登りの講習会での経験が役にたった。遠くから見ると見えない足場が近づくとそこにある一足・・・しっかりと踏むことで立つことができました。唐松岳山頂、コーヒで乾杯。仲間に助けられ、天候も味方してくれ、大変だったけれど縦走でのテント泊を経験できたことを大変うれしく、また思い出話の一つになった。



7月23日(木)~7月28日(火)

C班 五竜岳 ~ 鹿島槍ヶ岳 ~ 針ノ木



五竜岳



鹿島槍ヶ岳



爺ヶ岳

## 後立山縦走登山を振り返って

14852 竹本 正幸

今回の山行は、天候に恵まれたことと全員の頑張りですぐ予定通り歩くことができました。

メンバーは、22歳から66歳、チームワークも良く、楽しい山行ができたことが一番の喜びです。縦走登山の楽しさを満喫し、「もう・・・」ではなく、「また行きたい」という気持ちになれた山行でした。反省点は、

1. 長時間の行動に対するトレーニングが不十分であった。
2. 一日の行程時間は、年齢を考えると8時間を限

度にすべきであった。

3. 長時間の行動は、意識的にグリコーゲンを補給する、さらに水分、クエン酸アミノ酸を摂取すること。倦怠感、筋肉の疲れ、足のけいれんは、リスクの要因となる。
4. 食べやすい行動食と量を工夫すること。
5. 水に関しては、縦走の場合は山小屋での補給も選択肢に考えてもよいと思う。

山行を考えて如何に荷を軽くするか、これも登山技術の一つと考えられる。荷を軽くして行動範囲を広げるか、じっくり時間をかけて行動するかは、その人その人の環境と楽しみ方であり、要は安全に楽しい山登りが基本。さらに自然保護、他人に迷惑を掛けないことにも気を付けたい。





稜線を歩く



ひたすら歩く



針ノ木岳

いつまでも元気に山歩きを続けたい

15174 縄手 修

7月24日(金)くもり

縦走の終着点である扇沢に縄手車を1台置いて遠見駅へ。遠見駅では登山計画書を提出しテレキャビンでアルプス平へ。アルプス平からリフト乗り場までは、7月の後半だと思えないほどにいろんな花が目を楽しませてくれました。

リフトを降りる前から雨が降りはじめ雨支度をしました。地蔵の頭、小遠見、中遠見を過ぎ大遠見山あたりでは、ガスの切れ目から雪渓も見えてきました。西遠見山へと高度を上げる間に70歳台の老人夫婦に道をゆずったりゆずられたり、私もあのように元気に歳を重ねたいと思いました。五竜山荘ではビールが格別にうまかったです。部屋は奥の一部屋(静かな部屋でした)を私たち5人で使えたのでゆっくり休めました。



最高の景色を堪能

北九476 田中 貴大

7月25日(土)晴れ

まだ外が暗いうちに五竜山荘をあとにする。ヘルメットにライトを着け足場の悪い山道を登る。五竜岳の山頂に着く頃には明るくなっており、遠くの富士山が良く見える最高の景色を堪能しながら朝食。

昨年2人の方が亡くなったキレットですが、岩の急激な登りと下りで、垂直に近いところもあったが、危険な場所には梯子が鎖が設置されていて、慎重に

登ればバランスを崩して転倒することはありません。

途中にあるキレット小屋を見て凄いとこに建てたものだと感心し、トイレのきれいなことに驚きました。キレットを過ぎれば、後は落石に注意しながら鹿島槍ヶ岳の頂上へ。絶景を見ながら体力を回復させ、冷池山荘を目指して下ります。途中、布引山から鹿島槍を見て、随分歩いた自分を褒める。

徐々に歩きやすい草原になり、小屋まで休まず駆け下りました。小屋に着くと虫の多さと人の多さ、さらに寝るスペースの狭さに驚いた。

疲れを残さないように眠れるか心配しつつ、2日目終了。お疲れ様でした。

忘れない仲間と歩いた針ノ木への道

14853 竹本 加代子

7月26日(日)晴れ

昨日は、20代から恋焦がれていた双耳峰鹿島槍ヶ岳をやっと越えた。11時間の行程から若干の疲れを覚えながらも、今日は花の尾根歩きと心も軽く出発した。

まず爺ヶ岳の南峰に立つ。振り返れば鹿島槍ヶ岳、目指すは針ノ木岳。新越山荘では後半の長丁場を考え少々不安のある飲料水を、計1リットル購入補充しガス欠に陥らないために行動食を無理やり口に運ぶ。他メンバーも各自水やパンなどを調達した。

向かう鳴沢岳と赤沢岳の稜線の下には扇沢から黒部ダムまでの関電トンネルがありトロリーバスが観光客を運んでいる。尾根を抜ける風は心地よく富士山はもちろん目の前に手の届きそうな立山・剣岳がドカーンと。長次郎だ、八ッ峰だ、三の窓雪だだと酔いしれた。

黒部ダムを眼下にその源を追えば黒部五郎のカールを確認、そして槍の穂先に奥穂に前穂に続く吊尾根と東に目をやれば妙高山に火打山と興奮の360°のパノラマである。

しかしながら、赤沢岳で歩行時間も8時間経過。順調だったペースも徐々に遅れ気味になる。山行3日目の身体の疲れから次第に無口になる。





### 針ノ木小屋



### 大雪渓を下る

赤沢岳鞍部からスバリ岳への登り返しに至る岩稜のコースは不安定な足場でザシていて滑りやすく歩きづらい。ガレ場はどの岩を触っても落石させそうで気が抜けずペースダウンが続く。この山行の最後のピークである針ノ木岳を目前にきついジグザグのガレ場が続く。立ち止まり呼吸を整えながら立ち休憩を繰り返し、最後の頂きの一步をまず歳弘さん、田中君が刻みお互いの健闘を称えて握手！握手！握手！針ノ木小屋着は予定より約2時間遅れの12時間の行程でした。

このコースでアサギマダラに会い絶滅の危機が迫っているライチョウの親子に3回も会って、丸っこい体に癒されたのは言うまでもなく、ハードな行程を歩き通せたのは、自然に対する感動を言葉にされる詩人の歳弘さん、ギャグ連発の縄手さんとクールな若者田中君の掛け合いに常に笑いがあり、時折、白手袋で交通整理もする愉快的な仲間達。良い天気と花と青空と壮大な眺めは、忘れません。仲間と歩いた針ノ木への道。心から感謝します。



#### 百瀬慎太郎に想いを馳せ

15416 歳弘 逸郎

7月27日(月)晴れ

針ノ木小屋で朝食を終え、扇沢に向けて下山開始。昨日まで右手に剣岳、立山を眺めながらの縦走もここでお別れ。すぐに、雪渓上部に着く。全員アイゼンを着用し三大雪渓の一つ針ノ木大雪渓を快調に下る。みんなの顔は達成感でいっぱいです。

小休憩を何回か取りながら、2時間で大沢小屋に到着し、ここで大休憩。

この大沢小屋の入り口前には、針ノ木小屋と大沢小屋を建てた百瀬慎太郎のレリーフがある。

山好きな方なら一度は耳にしたことがあると思います。歌人、登山家、日本山岳会会員である百瀬慎太郎(1892年~1949年)は次のような歌を残しています。

「山を想えば 人恋し 人を想えば 山恋し」

著名人との交流もあり、百瀬をしのんで設置されたプレートには、横有恒(元日本山岳会会長)の名前もありました。

私は20代初めのころ、登山に行く電車の中でこの歌を見知らぬ人から聞きました。以後40年、一度たりともこの歌を忘れたことはありません。

大沢小屋で大休憩した後は、扇沢に向けて下山。1時間で到着し下山完了。扇沢は、立山方面への観光客でにぎわっていました。

扇沢から縄手さんの車で大町温泉郷の薬師の湯に行き、4日間の汗と疲れをとり、初日の登山口である白馬テレキャビン駐車場に行き、各自お土産を購入し解散、帰路につきました。





**月例山行 7月12日(日)****宗像市城山(じょうやま)・(369.3㍍)～金山(かなやま)・(317.4㍍)****出会えなかったキヌガサタケ、来年こそ!****15710 町元 里香****行程**

JR教育大前9:10～城山登山口9:20～城山山頂10:20/10:40～石峠11:15～金山南岳11:40～金山北岳12:00～金山南岳11:40/12:40～三郎丸口13:40～城山登山口下山15:00(解散)

7月12日(日)晴れ、午前9時10分に福教大登山口に近い駐車場に集合。赤瀬CLから宗像登山マップが配られ、今日のコースと注意点の確認を受ける。

午前9時20分に登山口を出発します。階段状に整備された登山道の脇の山道を登る。台風10号の影響でかなり蒸し暑い。6合目の三郎丸登山道分岐点を過ぎると爽やかな涼しい風が吹いてきた。途中で休憩をとり、午前10時20分に城山山頂に到着する。

山頂広場の小屋にはウスキキヌガサタケの開傘情報が掲示されていた。山頂で出会った地元の方が「キヌガサタケはどこで出会えるかは神様しか知らないのよ」と言った言葉がすごく印象に残った。

山頂からは玄海灘を望むことができ、大島はくっきりとみえたが、曇っていたため海の正倉院と呼ばれる沖ノ島までは見ることはできなかった。集合写真をとり午前10時40分に金山に出発する。静かな樹林帯の中を歩く。陽がさすといっせいに蝉が鳴き

始める。石峠までの急な坂はロープが張られているが前日の雨のせいで足元が悪く滑りやすい。靴を路面に平らに置き歩幅を小さくして降りる。

石峠で休憩をとり金山山頂をめざす。そんなに距離は長くはないのに、かなりの急登ですごく疲れたが、先日の山岳専科で習った、脈を計りながらマイペースで登る練習ができた。金山南岳に午前11時40分に到着。宗像市街地が望めた。荷物は降ろさず北岳に出発する。北岳山頂には四等三角点があり孔大寺山が見えた。南岳にもどり昼食をとる。

昼食後、ツェルトをテントのように張る方法を試し、ロープワークの練習をした。石峠から赤間方面に下り、三郎丸登山道を通るコースで下山した。登山道入り口の湧水を汲んで飲むとそのやわらかさと冷たさで心も体も和んだ。トイレの裏付近に昨日開傘していたという情報があったので急いで行ってみたが、網目状のレースのドレスをまとったウスキキヌガサタケには出会えなかった。

来年の楽しみにとっておくことにしよう。この次は絶対出会えますように。

参加者： 7人

会員：CL 赤瀬榮吉、榊俊一、大内喜代子、森本信子、縄手修、町元里香

支部友：藤原玲子

**月例山行 8月30日(日) 由布岳 (1583.3㍍)****西峰～東峰、ガスの中お鉢巡りを楽しむ****13523 井上 禮子****行程**

正面登山口9:00～合野越9:40/9:50～マタエ  
11:05/11:10～西峰11:30/12:00～東峰13:10/  
13:35～マタエ13:45～正面登山口15:30

台風15号の影響で前日まで雨、雨、雨……。お鉢巡りはマタエで判断するとして駐車場をスタート。登山届を提出し目指す由布岳を正面に草原を進むが双耳峰はガスの中で全く見えない。



樹林帯の中を進むと台地状の合野越到着。一休みしてここから本格的なジグザグの登りになり視界が開けてくると西峰・東峰の鞍部、マタエに到着。

時折吹き抜けるガスの切れ目に雨の心配はなくお鉢巡りを決行する。

鎖場の障子戸の渋滞を想定し、A班：竹本(加)CL・井上・森本・森・奥田・塚本が先行。B班：大内SL・竹本(正)・歳弘・町元・藤原夫妻が少し遅れて出発。障子戸の絶壁の鎖場を慎重にトラバースしてやせ尾根を登れば一等三角点の西峰に登頂。ここで昼食。まもなくB班到着。本来なら独立峰なので360度の眺望のはずだがガスで視界はきかない。ここから東峰へはミヤマキリシマの時期にピンクの絨毯を楽しみに過去に何度もお鉢を廻っている。いよいよ東峰へのお鉢巡りスタート。一気に下り、

ロープも鎖もない岩壁を慎重に越え剣ノ峰への尾根をよじ登る。ガスの為火口跡は見えず恐怖心は全くない。東登山口コースの分岐を過ぎひたすら登って東峰着。B班の到着を待ち全員でマタエへ下り往路を戻る。

お鉢巡りの途中で竹本CLが一本のオオヤマレンゲを発見!!

来年は森の貴婦人の時期に、そして晴天の日にお鉢巡りを楽しみたいものです。

参加者： 12人

会員：竹本加代子CL、大内喜代子SL、井上禮子、竹本正幸、森本信子、森義雄、歳弘逸郎、奥田スマ子、塚本久嘉、町元里香  
支部友：藤原玲子、ピジター：藤原栄

## 個人山行 8月23日(日)~24日(月)

### やぶこぎコースの先は大船山山頂

15834 小林 英世



8月23日は雨予報であったが、24日は晴れることから、大船山のくたみ分かれコースに行くことになった。くたみのある「宮処野」は、景行天皇が、禰野(ねぎの)の土蜘蛛を征伐したときの行宮(行宮というのは天皇の行幸時などに設けられる臨時の御所のこと)跡に天皇をお祭りしたのがはじまりで、のちに嵯峨天皇を祭神とし、明治4年に宮処野神社と改称され、現在に至っている。くたみとは、風土記に直入郡、古くは「なおり」、今は「なおいり」という、その中に「朽網(くたみ)」の郷にある野原と出てくる。日本書紀には「来田見」の字が見られる。土地や山の名前の由来は難しい。

くたみ分かれ(岐れとも)からは、鉾立峠を経由して登るのが一般的であるが、CL内藤さんの案内に従って、道なき道に行くことにした。しかし、昔(数十年前)はほとんど標識がなかったという道が、

今はテープやラミネートした標識が各所にあってほとんど迷うことがない。苔むした岩、神と見まがうこもれび、急峻な山道を汗をかきかきわれわれは登りに登った。

2時間半かかってようやく展望岩に着いたが、絶景だった。さらにわれわれは2時間かけてとうとう頂上に登り詰めた。北大船が真下に見える。そして、頂上から少し下り戻って、広くなったところでわれわれはKnight特製のホットケーキを食べた。

帰りは、さらに急峻な鉢窪を経由して佐渡窪に出る道を選んだ。佐渡窪に下りたときは、正直ほっとした。しかし、道なき草原を横切るのも不安がないとは言えなかった。そこからくたみ分かれに通じる登りは足には来ていたが、何となくほっとした。

下山してから食べたガンジーソフトの美味しかったこと。

秋の大船山の御池紅葉の時期には、このたび泊まった沢水(そうみ)キャンプ場で「バーベキューをして、大船山に登ろう」を計画予定、御池にはメインルートを登るので初心者もご安心あれ、そのときは、ぜひご参加ください。

テント泊の楽しさを伝授いたします、小林英世

参加者： 5人

会員：内藤正美、大谷恵美子、小林英世  
支部友：加藤信子、ピジター：百田道子



## 8月11日「坊がつる讃歌」歌碑建立除幕式に参列して 13451 高島 拓生



平成27年8月11日(火)大分県玖珠町九重町長者原ヘルセンターで「坊がつる讃歌」歌碑建立除幕式が行われました。支部からは、伊藤支部長他7人の会員が除幕式に参列しました。ご存知のように「坊がつる讃歌」は山の歌としてここ九重連山の美しい山々を歌っています。このたび、地元九重町をはじめ、山の団体・関係者が歌碑建立の寄付を呼びかけ完成、来年の山の日制定の1年前8月11日に歌碑の除幕式をおこなわれました。当日は、地元大分県、九重町、山の関係団体、「山の日」協議会会長谷垣禎一さん

(日本山岳会会員)、歌手の芹洋子さんなどが祝辞を述べられました。また、会場では芹洋子さんが坊がつる讃歌を熱唱しました。そのあとの祝賀会では、北九州支部会員が芹洋子さんを囲んで記念の集合写真を撮り、お話しすることができました。

### 参列者 7人

伊藤久次郎、原広美、関口興洋、高島拓生、丹下洽、丹下香代子、大木康子 竹本正幸

## もうひとつの歌碑

支部長 伊藤 久次郎

山の日8月11日、九重長者原で芹洋子が歌った「坊がつる讃歌」の歌碑除幕式が行われた。それと同じころ、もうひとつの「坊がつる讃歌」の歌碑が作られていた。それは芹洋子が歌った「坊がつる讃歌」の原曲ともいえるべきもので、これは1952年、当時九大生だった松本健夫氏(元JAC福岡支部長)、梅木秀徳氏(同、東九州支部長)、草野一人氏ら3人が坊がつるのアセビ小屋で、広島高等師範学校の山岳部歌をくじゅうに置き換えて作ったもので9番まである。

山の日8月11日の歌碑建立祝賀会で、法華院温泉山荘の弘蔵社長から「坊がつる讃歌の別の歌碑を作ったのでいちど見てほしい」とのお話をいただいた。そして8月30日、支部月例山行の由布岳登山に同行することで、私と高島さん二人で出発した。二人の目的は、もうひとつの歌碑が飾ってある法華院山荘別館「花山酔」に立ち寄ることであった。

当日高島さんのマイカーで出発したが、由布岳登山口に到着したのは本隊13人が既に出発したあと

であった。折角だから由布岳の麓にある「飯盛ガ城」(1067m)まで登った。正午に山頂に到着。同じころ本隊も由布岳山頂であった。昼食後正面登山道を下山したが、これは大変見晴らしの良いコースであった。下山に使うと大変よろしい。

午後2時前に長者原の「花山酔」に到着し一風呂浴びて、駆けつけた弘蔵社長にお会いした。そして玄関横に展示してある「坊がつる讃歌」の歌碑を見せて頂いた。その歌碑は厚さ2~3cm、大きさ50cm×40cm位の白と黒の石版に彫り込んだもので、何と私が彫った版画がそのまま彫り込まれていた。これを見て私も感謝感激であった。

現在歌の1番と4番の2枚が、それぞれプラスチックで作った丸太の枠に固定され置かれていた。社長の話では、今はまだ2枚だけであるが、来年の今頃までに6番まで全部作り、坊がつるに設置したいとのことであった。その時はもうひとつの歌碑建立除幕式になるかもしれない。やはり「坊がつる讃歌」は、坊がつるにあるのが望ましいと私は思った。



## 第2回 山岳専科 7月5日(日) 皿倉山(622.27m) 登って楽しくお勉強

北九470 藤井 信義

### 行程

9:00皿倉山ケーブル山麓駅駐車場集合～  
皿倉山山頂～ビジターセンター～駐車場(15:00)

### 本日のテーマ

- 1.登山の主催者とリーダー責任
- 2.山で使われる筋肉について
- 3.登山の健康管理と注意
- 4.地図の読み方について
- 5.傾斜線の読み方と計算

集合時間の午前9時前には全員が集まり、「今日は雨を期待していたんですが、あいにくの曇りとなりました」の開始のあいさつではじまった。

いつもの登山なら晴れを期待するところであるが、今日は山岳専科！コンディションが悪いほうが勉強になることも事実である。

続いて本日の行程について提案があった。帆柱ケーブル山麓駅から頂上直下のビジターセンターまで2時間ぐらいかけて登ります。登るとその分講習時間が短くなります。講習時間を長くしたければ、このままビジターセンターまで車で行きましょう。どうですか？登りたいですか？・・・ということになり多数決で決めることになった。私は、講習を長く聞きたかったので車で行ききたかったが、参加の皆さんは、どうも登りたいらしくほとんどの方が登るほうに手を挙げておりその結果、登ることに決まった。

本日の天気は曇り。雨にはならなかったが、登山道はドロだらけであった。スタートからゆっくりペースで登り始めた。今回の参加者は18人でそのうち2人はビジターさんだったので、それでゆっくり歩いているのだと思っていた。

初めの休憩があり、そこで園川先生がいろんな説明をしていた。今日は講習の時間が短いので、休憩中にもいろんな話をせないかなー。今話した内容は試験に出るので「よーく聞いておくように」とプレッシャーをかけていた。それから休憩が終わって登り際に「今日は短期大学。でも単位は同じように取らないかなー」といつもの冗談で場を和ましていた。おそらく、この冗談の反応で皆の調子を見ていたのだろう。

しばらく登ると皿倉の泉と書いた立札があり、き

れいな水が流れていた。この湧き水のことを「80度の沸き水」といっている方がいた。その方は、今日みたいに暑い日には寒いギャグが必要だといっていた。そんな笑いの中、さらに休憩が2回あり2回目の休憩で心拍数を測った。実は1回目の休憩で園川先生は全員を見ていて、その時に皆さんはムダな話をしていたので既に高度順応できていると判断しましたといっていた。さすがである。リーダーは常に全員に気を配らなければならない。そしてここから先は、今まで登ってきた速度の倍の速さで登ります。

ビジターセンター手前の休憩所に着いたらもう一度心拍数を測りますと云われた。それから標高で30m程登りビジターセンター手前の休憩所に着いて皆で心拍数を測った。確かに心拍数は上がっていた。マイペースの計算式「目標心拍数=220-年齢×75%」と比較し、この結果で本日の自分の調子が分かりますと教えられた。

それからビジターセンターに入り、早めの昼食をとって講習となった。

講習では、「5.傾斜線の読み方と計算」「3.登山の健康管理と注意」「2.山で使われる筋肉について」「1.登山の主催者とリーダー責任」の順に説明があり、最後の「1.登山の主催者とリーダー責任」ではリーダーの責任の重さや遭難救助の大変さ、そしてその後に残る問題などを実体験をもとにした重い話を聞くことができた。

ここまで聞いてちょうど下山の時間となりビジターセンターをあとにした。

本日予定してあった「4.地図の読み方について」は次回の講習となった。次回の地図読みでは、一つの地形図を見ながら皆さんと一緒に「あーでもない」「こーでもない」と言いながらいろんな方の考え方を学び楽しく勉強したいと思います。

最後になりましたが、主催者や参加の皆様に変にお世話になりました。

参加者：18人

講師：園川陽造顧問

会員：竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、森本信子、縄手修、森義雄、奥田スマ子、三浦利夫、

山中秀正、町元里香、清家幸三、

支部友：伊藤友紀、藤原玲子、藤井信義、藤井淳子、網塚陽子

ビジター：平元翔子、西坂未来



## 7月20日(月) 平成27年度 指導員検定試験が実施される。

15709 山中 秀正



7月20日(月)天気 晴れのち雨

午前9時、血倉山ふれあいの家に今年の受験者6人と支部指導員7人が集合。天候の関係で午前中実技、午後は筆記試験のスケジュールとなりました。

実技試験の課題は、各自10分の持ち時間で実施され、終了後、園川講師の講評がありました

午後1時から筆記試験が実施されました。終了後、園川講師による解説がおこなわれた。その後、小論文の課題が設定され、午後2時30分に全てを終了。今回は、第1期生として受験者のサポートにあたり

ました。

園川顧問のご指導のもと、指導員になるという目的の自覚と認識をもって、お互いの向上を図るいい機会と思っております。

講師：園川陽造顧問

参加者：13人

会員：竹本正幸、竹本加代子、縄手修、赤瀬榮吉、森義雄、歳弘逸郎、三浦利夫、町元里香、山中秀正、奥田スマ子

支部友：伊藤友紀、藤井信義、藤井淳子

9月13日 森林保全巡視員植物観察会(研修会) 報告  
13533 磯野 文雄

料提供)」をテキストに、登山道にて観察した植物を振返りました。

9月13日(日)、森林保全巡視員の研修の一環として植物観察会を実施しましたので報告いたします。

行程は、午前10時に西鉄下原バス停に集合し、立花山登山口(下原側)に移動、午前10時15分出発。正午すぎ立花山山頂着、昼食及びレクチャー。

午後1時45分に山頂を出発し、午後2時45分西鉄下原バス停に無事到着して、解散しました。

参加者は、日本山岳会から8人、立花山グリーンガイドの会から9人の合計17人でした。

今回レクチャーをお願いしました「立花山グリーンガイドの会(福田勉会長)」は、立花山の動植物や歴史について学び、保護し、地元の小・中学校の生徒をはじめ、一般の方々を対象にボランティアにて案内をおこなっています。

湖尻浩子さん(グリーンガイドの会副会長)の先導のもと、堰堤の下の駐車場を出発、登山道脇の植物や樹木について、その植生や名称また名称に関する伝承などの説明を受けながら、クスノキの大木(森の巨人100選)を経由して、約2時間をかけて山頂に到着しました。昼食後、「クスノキに関するテキスト」(福田勉さんのオリジナル)と福岡市制作の「立花山パンフレット」(福田さん湖尻さんが資

●観察した植物：ツチアケビ、ヤマジノホトトギス、ノジギク、キッコウハグマ、ヒメジョオン、ミズヒキ、キンミズヒキなど

●観察した樹木：クスノキ、タブノキ、スタジイ、イヌビワ、アオキ、カゴノキ、バクチノキ、マユミ、ネコノチチ、アリドオシなど

立花山は400年に満たない小さな山ですが、愛情を持って山とむきあい、計り知れない山(登山)の奥深さや山から学ぶべきことを、我々に伝えていただきました。かつて、「山頂にしか興味がありません。」とおっしゃったピークハンターの中高年の登山者を思い起こしながら(本会の会員ではありません、念のため)小さな山であっても、尽きせぬ楽しみがあると、自分自身の登山の在り方を考えさせられた山行でした。

なお、立花山グリーンガイドの会は、毎月第2日曜日の午前10時、西鉄下原バス停に集合し観察会を行っていますので、参加希望者は1週間前までに磯野までご連絡ください。

参加者：8人

会員：磯野文雄、高島拓生、大木康子、竹本正幸、竹本加代子、縄手修、清家幸三、山中秀正



## ◇◇月例山行のご案内◇◇

支部会員、支部友会員による県外山行  
(北九州支部エリア外)は「登山計画書」  
を必ず事務局に提出しましょう。

### 平成27年10月の山行

#### ●広島支部との交流会

##### および記念山行 由布岳(1583㍎)

リーダー：内藤正美、森義雄

と き：10月10日(土)～11日(日)

集 合：午後2時 家族旅行村「安心院」  
安心院ICから15分  
大分県宇佐市安心院町下毛1046  
(TEL00978-44-1955)

行 程：(予定)

10日(土) 午後5時 交流会

宿泊：テントまたは夜なべ小屋

11日(日) 午前6時 起床

午前7時 キャンプ場出発

午前8時30分登山開始

登山コース：

由布岳正面登山口～西峰～東峰～正面登山口  
約5時間(昼食時間含む) 午後3時解散予定

申込み：森義雄(携帯090-4475-7799)

、11日登山のみの参加可能。

(当日のみ参加者は正面登山口集合)

#### ●第4回岩登り(陶ヶ岳)

と き：10月25日(日)

集 合：9時 松永邸横駐車場

場 所：山口県陶ヶ岳

行 程：松永邸横駐車場～陶ヶ岳岩場(岩登り  
トレーニング)～駐車場(午後3時解散)

申込み：竹本正幸(携帯090-6739-9251)

締切り：10月17日(土)

### 平成27年11月の山行

#### ●第31回宮崎ウエストン祭(宿泊)

と き：11月2日(月)～3日(祝)

会 場：高千穂町五ヶ所高原「三秀台」

概要

2日午後4時～式典及び地元関係者による交流会

午後5時30分～地域交流会

午後8時～他支部との交流会

※宿泊は高千穂町五ヶ所公民館

3日記念山行「親父山」(1644㍎) 約5時間30分

その他 詳細は参加者へお知らせします

申込み 森義雄(携帯090-4475-7799)

竹本正幸(携帯090-6739-9251)

締切 10月20日(火)

#### ●関の山・三高山(嘉麻市)(宿泊)

リーダー：高島拓生・榊俊一

と き：11月14日(土)～15日(日)

集合時間・場所：

午前10時 関の山庄内登山口(予定)

行 程：

11月14日(土) 関の山(359㍎) 登山(約4時間)

下山後入浴し、三高山小屋に移動

小屋にて夕食・懇親会

11月15日(日) 9時から三高山山行

その他 宿泊のためシュラフ等の準備が必要です。

食事については、参加が決まり次第打ち  
合わせを行います。

当日は、高島・榊が案内します。

申し込み先 森義雄(携帯090-4475-7799)

締切り：10月31日(土)

### 平成28年1月の山行

#### ●鶴見岳(1374㍎)

リーダー：清家幸三・赤瀬榮吉

と き：1月17日(日)

集合時間・場所：9時 旗ノ台登山口

行 程：旗ノ台登山口～鶴見岳～馬の背～  
旗ノ台登山口(約4時間)

※積雪により変更があります

申込み：清家幸三(携帯090-8664-4411)

締切り：1月6日(水)

#### ●十種ヶ峰(989㍎)

リーダー：内藤正美

と き：1月24日(日)

集合時間・場所：午前8時 山口県庁

行 程：神角登山口～十種ヶ峰～神角登山口  
(約4時間)

※積雪により変更があります

申込み：内藤正美(携帯090-8993-0239)

締切り：1月13日(水)



◇◇**個人山行のご案内**◇◇  
野の花を愛で、史蹟を巡り、  
のんびり山歩きを楽しみませんか

担当：丹下 治

=時期および山行箇所=

●10月～11月

- ・10月22日(木) 上仏来山  
(大友氏と戦った英彦山方の本陣跡)
- ・11月27日(金) 風師山  
(門司合戦三角山城跡と風師山紅葉谷)

◆集合時間やルート等の詳細については、  
直接丹下会員へお問い合わせください  
申し込み先 丹下 治(たんげこう)  
(TEL093-391-8193)  
(携帯090-3732-8843)



個人山行  
九重紅葉を見に行きませんか！  
秋の夜長をテント泊で  
ご案内は、内藤です

と き：10月24日(土)～25日(日)  
場 所：九重沢水キャンプ場テント泊(予定)  
行 程：24日 15時キャンプ場集合  
テント設営、装備の説明等、  
25日 5時起床、朝食  
7時がらん台～東尾根～入山公墓  
～下山口

その他：今回のテント泊は初心者の参加歓迎しま  
す。テント泊の良さをお教えします。  
希望者は、内藤正美まで(携帯090-8993-0239)  
申し込み期限 10月20日(火)



## スキー講習会のお知らせ

※経験は問いません！  
スキーを始めたい方大歓迎！

●講習会

① 平成28年1月  
と き：1月26日(火)～29日(金) 3泊4日  
場 所：山形蔵王スキー場(予定)  
行 程：26日福岡空港～仙台空港～蔵王スキー場  
27日・28日スキー講習会  
29日スキー場～仙台空港～福岡空港  
※条件により変更があります  
申込み：森 義雄(携帯090-4475-7799)  
締切り：12月10日(木)

② 平成28年2月  
と き：2月27日(土)～28日(日) 1泊2日  
場 所：広島県スキー場(予定)  
行 程：バスで現地まで、2日間講習予定  
※条件により変更があります  
申込み：森 義雄(携帯090-4475-7799)  
締切り：2月6日(土)

## 事務局からのお知らせ

◆英彦山バイオトイレ清掃の  
ご協力をお願い

北九州支部のトイレの清掃担当日は、  
10月7日(水) ・11月18日(水)  
12月30日(水) ・2月10日(水)  
3月23日(水)

清掃の参加希望者は、担当までご連絡ください  
担当：森義雄(携帯090-4475-7799)

## 岩登り同好会発足しました ～会員募集中～

経験は問いません！  
岩登りをはじめたい方大歓迎！  
詳細は別途  
申込み：坂井義臣(携帯090-1925-4054)



# 会 務 報 告

## ●平成27年9月定例役員会報告

1. 日時:平成27年9月2日(水)18:00~20:00
2. 場所:当支部ルーム(毎日会館1F)
3. 出席者:伊藤久次郎、板倉健一、竹本正幸、磯野文雄、丹下洽、大木康子、大内喜代子、縄田正芳、縄手修、森義雄、馬場基介、木原充  
欠席者:日向洋剛、武永計介、池田智彦、

### 4. 議 題

#### (1) 会員の異動状況

- ・ 通常会員:入会者  
: 清家幸三(支部友から)、小林英世(新規)
- ・ 支部友:退会者: 清家幸三(通常会員へ)、  
山崎近史(北九408)
- 通常会員:74人(72人)、支部友:46人(48人)、  
会友:4人 計:124人(124人) ※( )は前回

#### (2) 会費納付状況

8人未納

#### (3) 山行・行事報告

- ・ 7月5日(日) 山岳専科(血倉山)17人参加(竹本)
- ・ 7月12日(日) 城山~金山7人参加(大内)
- ・ 7月11日~12日 宮崎支部創立30周年記念式典、九州5支部集会13人参加
- ・ 7月20日(月)指導員養成検定試験(血倉山)受験者6人+7人(13人)
- ・ 7月23日~27日 Cコース(五竜岳~針の木岳)5人参加(縄手)
- ・ 7月30日~8月2日Aコース(白馬岳~朝日岳)7人参加(森)
- ・ 7月31日~8月3日Bコース(白馬岳~五竜岳)5人参加(馬場)
- ・ 8月9日(日)山の日制定記念プレ家族登山(小森江公園~風師山~矢筈山)  
一般参加者:32人、支部サポート:19人(丹下)
- ・ 8月11日(火)坊がつる讃歌歌碑除幕式典&山の日制定記念式典(長者原)8人参加(竹本)
- ・ 8月30日(日)由布岳12人参加 +2名(大内)

#### (4) 山行・行事計画

- ・ 9月6日(日)山岳専科(縄手)
- ・ 9月12日(土)右田ヶ岳~西目山(歳弘、大内)
- ・ 9月13日(日)高祖山~叶岳(三浦、榊)
- ・ 9月12日~13日第7回「山ごん」英彦山
- ・ 9月13日(日)「植物の観察研修会」立花山(磯野)

- ・ 9月27日(土)岩登り平尾台唐手岩(板倉)
  - ・ 9月26日~27日支部合同会議(東京)
  - ・ 10月4日(日)指導員研修会・血倉山
  - ・ 10月10日~11日広島支部との交流および登山・由布岳
  - ・ 10月25日(日)岩登り教室、陶が岳(竹本)
  - ・ 11月2日~3日宮崎ウエストーン祭(森、竹本)
  - ・ 11月14日~15日三高山(高島、榊)
- (5) 本部からの交付金等の報告(支部運営交付金、支部事業助成金、新入会報奨金)、共益事業、公益事業
  - (6) 支部自然保護委員名簿チェック(本部届出:日向、高島、関口)
  - (7) 「山の日」取り組み実態調査(本部提出)
  - (8) 広島支部との交流登山準備  
案内の作成、泉水キャンプ場に7張り予約済、参加者は事前に集まり、役割などを決める
  - (9) 森林保全巡視委員申込者は現在18人、(9月20日締切り)後日、説明会を実施する
  - (10) 同好会の進め方と問題点(計画書の提出)
  - (11) 「英彦山秋の峰入り」は秋の行事が多いため、来年に延期する
  - (12) 来年の「山の日」記念行事は準備委員会を発足して早目に取り組み、行事案内を「市政だより」に掲載依頼。文化展の会場候補地(門司港税関所跡、小倉リバウォーク)の申し込み(10月1日の市政だより)
  - (13) 北九州支部紹介のパンフレット作成  
次回までにたたき台を作る(縄手、竹本、森)
  - (14) 忘年の集い(12月19日)担当者:大木、池田、大内、山行:縄手  
支部報にてオークション出品を募集する
  - (15) 支部報は10月1日発行予定
  - (16) 本部晩餐会 本日2日に12/5(土)、1部記念式典、2部晩餐会のお知らせがあった。
  - (17) その他
    - ・ 救命・応急手当の講習会を実施して欲しい(丹下)
    - ・ 遭難救助の訓練をやりたい(磯野)
    - ・ 10/29(木)個人山行で九重(扇が鼻)を考えている(丹下)

以上

文責: 事務局



## 九州シカ広域一斉捕獲の実施

平成27年度九州シカ広域一斉捕獲計画が実施されます。期間中の入山はご注意ください。

### 1 対象区域

福岡県：添田町・朝倉市・東峰村・豊前市  
みやこ町、上毛町、築上町、うきは町、行橋市  
川崎町、赤村  
他に、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

### 2 実施期間(平成28年3月)

- (1)一斉捕獲期間：平成28年3月20日(日)  
～3月27日(日)  
(2)一斉捕獲日：3月20日(日)、27日(日)

### ◎詳細の問い合わせ先

九州森林管理局保全課 (TEL096-328-3542)

## ◆支部ルームのご案内◆

### ●利用方法

現在、ルームは定例の役員会開催や版画教室などで使用していますが、会員ならどなたでもご利用できます。

個人山行の打ち合わせ、図書の閲覧などにもご利用ください。

他支部の支部報も展示していますので全国の最新情報が入手できます。

### ●入室方法

使用を希望する場合は、出来る限り事前に事務局へご連絡して使用してください。ルームには平日(土日祝日を除く)当番者がいる場合がありますので、ご連絡後、入室してください。

入室する場合で、当番者がいない時間帯及び曜日の場合は警備室からルームキーを受け取り入室することができます。

連絡先：

竹本正幸

(携帯090-6739-9251)

丹下洽

(携帯090-3732-8843)



## サロン ルーム



小倉サロンは  
毎月第4週の  
水曜日に開催  
しています

場 所：小倉北区魚町「コール天」

申込み：事務局森義雄 (携帯090-4475-7799)

## 小倉 サロン

- 10月28日(水) 午後6時から  
ビデオ放映(1時間8分)  
園川教室シリーズNO2午後の部(2011.7.16)  
山岳技術専科、男女合同専科(血倉山国見岩他)  
テーマ：初級クライミング技術と確保
- 11月25日(水) 午後6時から  
英彦山バイオトイレ完成説明会記録ビデオ  
放映(32分) (2014.5.19伊藤制作)  
テーマ：1、バイオトイレの構造、仕組み、  
2、清掃上の注意点  
3、使用するにあたっての注意点  
4、保守点検について
- 12月は忘年会のため開催しません
- 平成28年1月27日(水) 午後6時から(予定)

## 博多 サロン

- 11月6日(金) 午後6時30分より  
・場所:中央区天神2-6-42 平和楼3階  
旬魚旬菜「てんじん」  
・申込み：赤瀬榮吉 (携帯090-7475-9748)  
携帯電話かショートメールで



## 会員の皆さん保険に入りましょう!

これから、本格的な登山のシーズンです。

登る前には必ず保険に加入し、登山届を提出しましょう!

まだ保険に未加入の方は、事務局までお尋ねください。担当：森義雄(携帯090-4475-7799)

### ○日本山岳会団体登山保険

(団体総合生活保険)

対象者：日本山岳会通常会員のみ

契約者：公益社団法人日本山岳会

引受保険会社：株式会社東海日動パートナーズ  
TOKIO東東京支店

保険のお問い合わせ

月～金 9:00～17:00

TEL: 03-5637-1611

### ○山岳共済会の山岳遭難・捜索保険

対象者：別に制限はありません

契約者：日本山岳協会山岳共済会

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

日本山岳協会山岳共済事務センター

・保険のお問い合わせ

月～金 10:00～17:00

TEL: 03-5958-3396

FAX: 03-5958-3397

### ○スポーツ保険の紹介

加入手続きを行った5人以上のアマチュアの社会教育関係団体の構成員を被保険者として加入できる保険です。保険には、①傷害保険、②賠償責任保険、③突然死葬祭費用保険を一括契約した補償制度です。

当支部の会員の皆さんでは、①大人でスポーツ活動、スポーツ活動の指導・審判の団体活動が適用されます。(加入区分C:1,850円) また、65歳以上の方は加入区分で1,000円となります。適用される範囲として、ウォーキング、ハイキング、軽登山、釣り、キャンプなどが含まれます。

ただし、山岳登山、冬山登山、岩登りなど危険度が高いものは適用外です。

他には、捜索費用がついた保険、補償金額が高いものなど危険度に応じて色々な種類があります

## ◆編集後記◆

9月のシルバーウィークに、奥穂高岳に登りました。登山者にとってはあこがれの穂高ですから混雑は当然。岩場の中間の梯子で渋滞し、待っていると、登ってくる登山者を見ると両手にストックをぶら下げている。危ないなあと!ぶらぶらと下げて今にも梯子の間にひっかりそう。そういえば、酒沢岳の岩場の登りでもそんな方がいた。おせっかいかと思いつつ、「ストックをしまつて登られた方が安全ですよ」といえば、返事もなく無視。二人連れだが、二人ともストックぶらぶら。梯子の上はさらに岩場なのだが? ストックを使う場所が違うような気がする。ヘルメットを着用していないものもいる。今回、2度上部から落石があり、足などにあたった。お互い気を付けなければ大きな事故につながる。安全に対する知識や予防方法は登る前に必要だと考える。日ごろから経験豊富な方からの色々な場面でのアドバイスは大切にしたい。

事務局 森 義雄



## 居酒屋「コール天」

- 小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F
- TEL:093-522-0565
- JR鹿兒島本線 小倉駅南口から中央銀天街方面に向かい徒歩5分

北九州支部は毎月(第4週水曜日)のサロンでお世話になっています